

OPEN EDUCATION FOR EVERYONE

~「誰もが」学ぶ新しい教育~

中村 莉久
東京大学理科一類31組

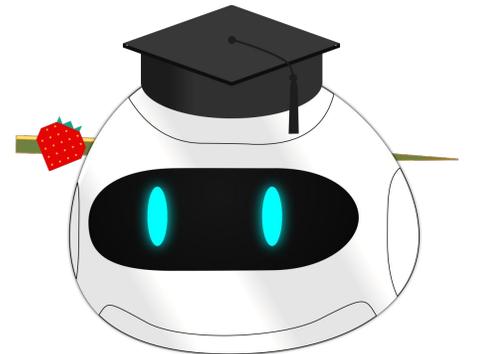


目次

オープンエデュケーションについて基礎から学ぶ教材

- 導入 これから学んでいく言葉のチェック
- オープンエデュケーションとは何か 何を
オープンにするのか
オープンとは何か 「オープン」
- 何故オープンエデュケーションが必要か 平等
教育
教育改善
生涯学習 「MOOC」
「生涯学習」
- まとめ

この教材でオープンエデュケーションについての
説明を担当するDAIFUKUです！
皆様よろしく申し上げます。

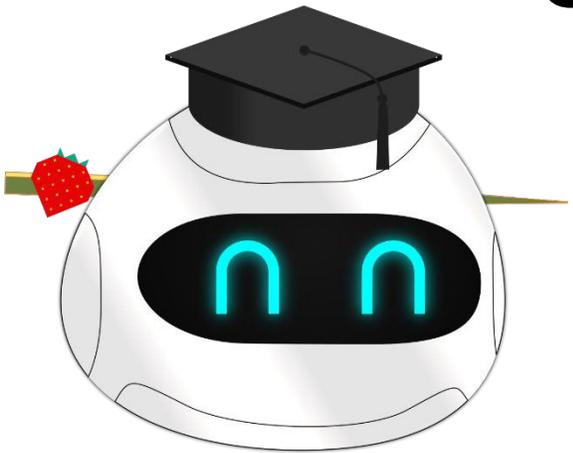


そもそもオープンエデュケーションって？

教育機関に限られない「人々に開かれた」教育



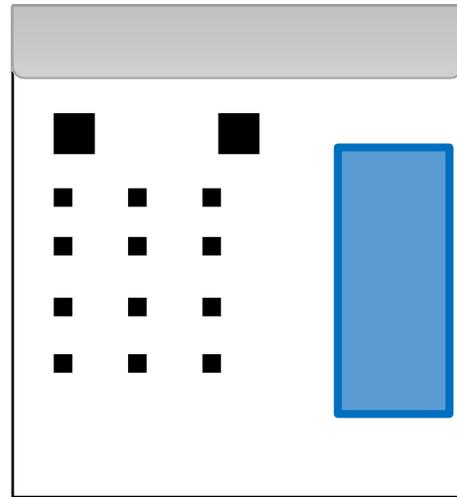
インターネットを活用することで誰でも自由に利用できる教育



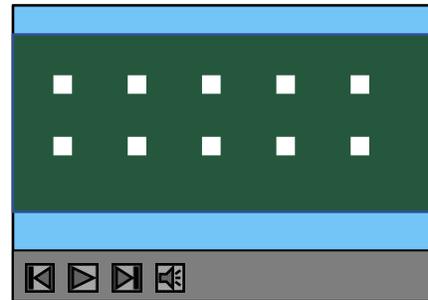
まずは身近な例から考えていきましょう！

誰でも使える学習のための材料

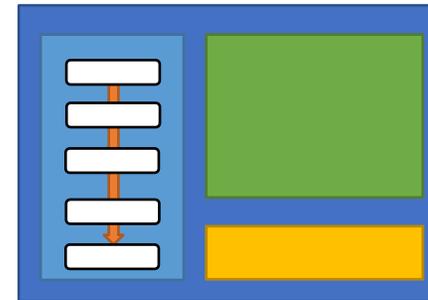
解説サイト



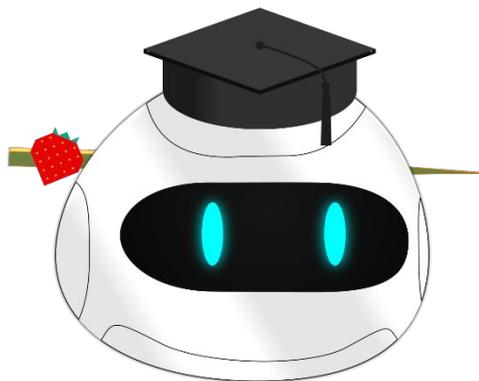
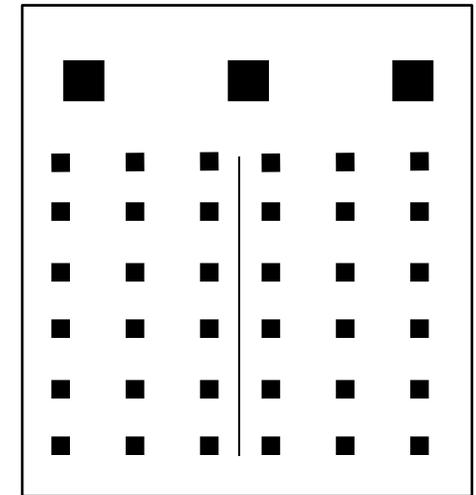
授業動画



教育ゲーム



文献



学校の教科以外の内容でも誰でも学習のために使えるという点でオープンな教材といえるね。

オープンエデュケーションの事例

OCW

(OpenCourseWare)

大学が、講義の映像、資料、教材、テストなどから構成されるコースを、インターネットを通して無償で公開する活動のこと。2001年のマサチューセッツ工科大学から始まり、現在では世界各地の大学が参加している。また、日本でも東京大学や大阪大学などの教育機関が団体を発足し、活動を行っている。

MOOC

(MassiveOpenOnlineCourse)

大学がインターネットのプラットフォーム上で、教材を公開して大人数に対して行う講義のこと。実際の講義のように公開されている教材を週ごとに分けられていたり、テストでの採点が行われたり、学習者同士のやり取りが交わされる場合もある。無料のコースもあるが、有料でそのコースを受けた修了証や単位を受け取ることがある。

ほかにもこんな取り組みも

•UNESCO

2012年パリOER宣言
2019年OERに関する推奨事項能力開発、
補完的な政策の策定、
質の高いOERへの効果的、包摂的かつ
衡平なアクセス、
OERの持続可能性モデル創出の促進
国際協力の促進及び推進

•米国労働省

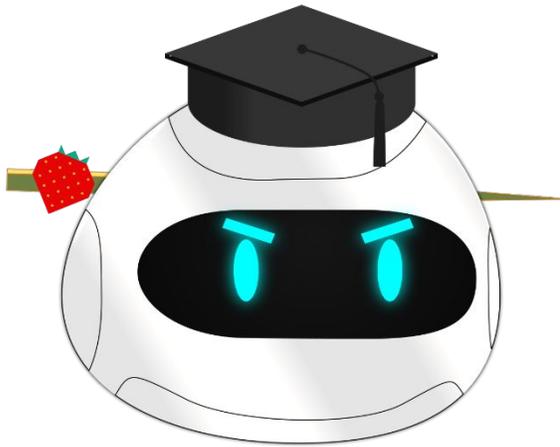
TAACCCT program

(Trade Adjustment Assistance Community College and Career Training)

19億ドルの投資を行い、労働
力開発のための、無料でオー
プンな
学習資料とプログラムサポート資料を含
むSkillsCommonsという無料でオープン
でオンラインな集積所を作成した。

疑問→目標

オープンエデュケーションが
どうしてここまで注目されているのか？



オープンエデュケーションとは何か、
どうして必要なのか、
これらを自分なりに説明し、調べられるようになるろう！

オープンエデュケーションの説明

教材

オープン・コンテンツ
Contents

講義映像、研究資料
講義ノートなど
その学習の補助となる
テストなど

オープン・ナレッジ

「教育的実践知識やノウハウ」
→教材をどう使って教えるか

オープン・テクノロジー

「教育的オープンソース・ソフトウェア」
→教材を配信したりやり取りするシステム

Practices

学生の知識や学習を助けることを目指す実践

Policies

リソースや実践において、資金や使用などに関する方針

オープンの定義

重田(2016)

アクセス	「教育のために必要な知識への自由なアクセス」 教育期間外の人でも無料で教材を閲覧などの利用ができること。
ライセンス	「誰かの作った教材を他者が使うことへの自由な承認」教材 をコピーし、それに編集などの改変を行うこと。
シェアリング	「誰もが教材を制作し、制作したOERをインターネット上で共有」アクセスと ライセンスができる状態で公表すること。



5R

Retain	教材をコピーして「保持する」
Revise	教材のコピーを編集、変更、「改訂する」
Remix	複数の教材のコピーやその改訂版を「組み合わせる」
Reuse	改訂、組み合わせられたコピーを公に対して「使用する」
Redistribute	改訂、組み合わせられたコピーを他人に「配る」

David Wiley(n.d.)(CC-BY 4.0)

実際に分析してみよう

前頁の5Rをもとに、以下の問題に取り組んでみてください。

5R: Retain Revise Remix Reuse Redistribute

Q1.以下の行為は、その教材が5Rのうち何が許可されていると可能ですか？
当てはまるものをすべて選んでください。

1-1.ダウンロードした教材の文章を訂正する。

1-2.データ上で赤線を引いた教材のスクリーンショットを、友人に渡す。

Q2.5Rの許可が明示されていない場合、インターネット上の著作物で可能な行為は何ですか？
※今回はサイト固有の規約ではなく、著作権法に則って教えてください。

答え合わせ

Q. 1-1.ダウンロードした教材の文章を訂正する。

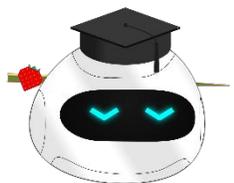
Retain Revise

Q. 1-2.データ上で赤線を引いた教材のスクリーンショットを、友人に渡す。

Retain Revise Redistribute

Q2.5Rの許可が明示されていない場合、インターネット上の著作物で可能な行為は何ですか？

Retain



著作権法上、私的利用に限り保存までは認められているんだ。
ただしサービスによってはダウンロードを禁じている場合もあるから注意!(YouTubeなど)

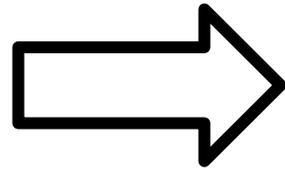
オープンについてのまとめ

教材

+

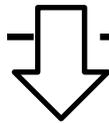
教育方法
ソフトウェア
実践、方針

大半が
インターネット



- 誰もが閲覧できる(アクセス)
- 誰もが利用できる(ライセンス)
- 誰もが共有できる(シェアリング)

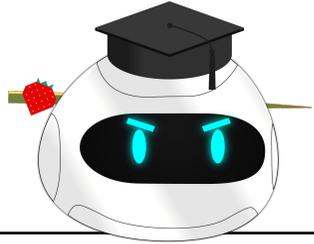
※全ての教材やサービスが上の三つを完全に満たしているとは限らない。
(P5のMOOCなど)



何故オープンにするのか

- UNESCOなど大きな組織が取り組んでいる
- 今までの教育と何が違うのかを3つの観点でまとめる

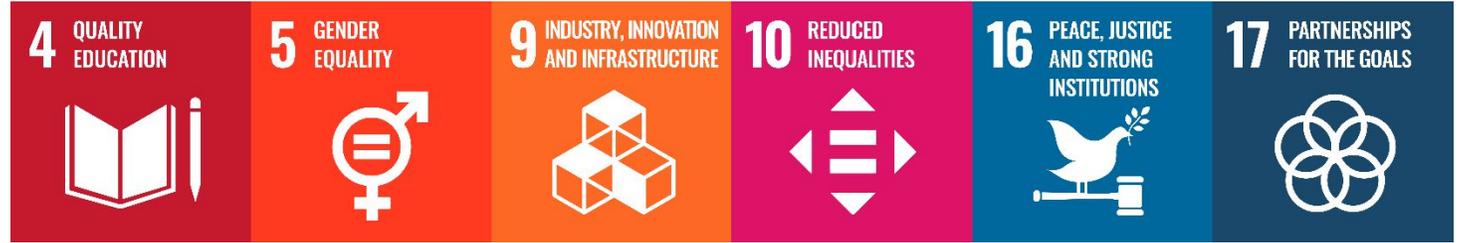
今までの教育は？



ここからオープンエデュケーションの特徴を分析するために、
まずは、今までの教育の特徴を整理しよう。

	年数	カリキュラム	入学方法	卒業、修了
小中高校	12年	ある	一部入試あり	可能 (高校などは要件を 満たす必要あり)
大学	4年 (例外あり)	ある	入試あり	単位が必要

平等教育



より教育を受けやすく

「全ての加盟国が、包摂的な知識社会を作り出し、及び持続可能な開発のための二千三十アジェンダ、すなわち、SDG4(質の高い教育)、SDG5(ジェンダー平等)、SDG9(産業、イノベーション及び インフラ)、SDG10(国内の及び国を越える不平等の是正)、SDG16(平和、司法及び強固な制度)及びSDG17(持続可能な開発目標のためのパートナーシップ)を達成することに資する、OERを主流化するための二千十七年のリュブリャナOER行動計画に立脚して、次のとおり定める。」

⇒ 貧富の差、男女の差など関係なくあらゆる人に対する教育を目指している。



- オープンなプラットフォームで講義を受ける。
教科書をオープンにすることで費用が安い。
- インターネット器具さえあればどこの誰でも講義が受けられる
(インフラ整備は必要)

教育成長

誰もが参加できる教育

様々な教育者、学習者が制作し利用を繰り返すことで、
様々なニーズに合わせた多様な教材が蓄積される。
また、他の教材を見て学ぶことで、教育の質の向上にもつながる。

オンライン、デジタルで行う教育

オープンの性質上インターネットを介する場合はほとんどなオープンエデュケーションにおいて、
オンラインやデジタルが故に行うことができる授業形式や学習方法がある。

ブレンド型学習

対面型、eラーニングを組み合わせた授業

反転授業

知識のインプットである講義を予習としてオンラインで、対面では知識のアウトプットである演習や意見交換などを行う授業

アダプティブラーニング

学習者個人の修学状況に合わせた学習(特に近年ではコンピューターによって学習履歴を利用するものが構想されている)。

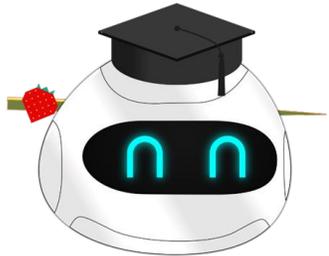
生涯学習

リカレント教育

「学校教育からいったん離れたあとも、それぞれのタイミングで学び直し、仕事で求められる能力を磨き続けていくこと」「リカレント教育」(厚生労働省)より引用
そのために社会人が学んでいくこと

デジタルバッジ

教育機関や資格主催団体からデジタルで学習成果を証明するもの。



P13でまとめた今まで受けてきた教育と違って資格に近い教育だね。
P5のMOOCは金銭を払って単位や証明書なども取得できるんだよね。

就労目的外にも生涯にわたって自由に学ぶことができる

今までの教育との比較

	年数	カリキュラム	入学方法	卒業、修了
小中高校	12年	ある	一部入試あり	可能 (高校などは要件を満たす必要あり)
大学	4年 (例外あり)	ある	入試あり	単位が必要
オープン エデュケー ション	自由 (年齢も問わない)	自由	入試なく、無料 (学習内容を学習者に合わせる、 有料コースが存在すること も)	自由 (証明書や単位を受け取る にはテストが必要)

おさらい

Q1.オープンとは何？

ヒント:「何」を「どうできる」状態のこと？

Q2.MOOCの特徴は何だった？

ヒント:教材を公開するOCWとの相違点2つを思い出そう。

Q3.この教材で紹介されている事例の中で、
生涯学習の例を探してみよう！

ヒント:生涯学習の一種「リカレント教育」は何のための学習だった？

答え合わせ

Q1.オープンとは何？

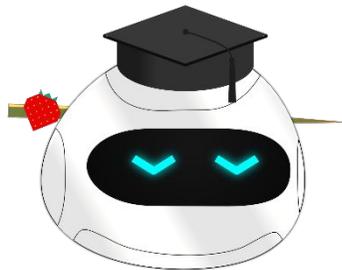
教材及び学習を補助する方法や道具などを、誰もが閲覧、利用し、それを共有できる状態にすること。

Q2.MOOCの特徴は何だった？

インターネットを通して教材を公開して大人数に対して講義を行うプラットフォームで、修了書や単位も得られる場合がある。

Q3.この教材で生涯学習の例を探してみよう！

Page6の米国労働省は、労働力の開発のために無料のオープンな資料の集積所を作成している。



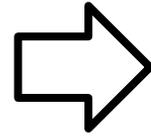
太字のワードは特に重要！似ている活動であるOCWとMOOCの相違点や、これまでの教育と生涯学習の相違点を含んでいるよ。

まとめ

オープン

教材

教育方法
ソフトウェア
実践、方針



- 誰もが閲覧できる(アクセス)
- 誰もが利用できる(ライセンス)
- 誰もが共有できる(シェアリング)

重田(2016)

大半が
インターネット

平等教育

貧富の差、男女の差、その他様々な違いを問わずあらゆる人々に平等な教育を行い、平等な権利が得られることを目指す。

教育成長

様々な人が利用、作成や編集を行い、インターネットにより可能になった技術と合わせて多様な教材を創出する。

生涯学習

学校教育から離れた後でも教育を自由に受け、就労に役立てたり学術的な興味を満たすことができる。

これから先学ぶこと

- 実際の事例

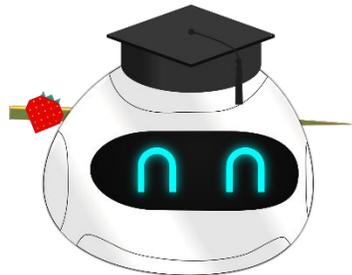
今回取り上げたのはほんの一部の事例であり、国内外問わず様々な取り組みが今も行われている。

- オープンエデュケーションのデメリット、課題

オープンエデュケーションにもデメリットがあり、それが故に導入できずにいる事例もある。(教材の著作権、認知度の低さ、資金の調達など)

- これからの教育がどうなるか

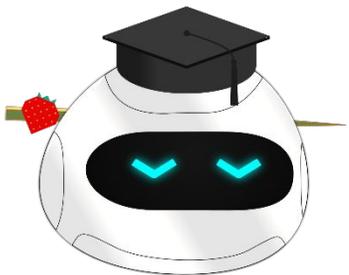
これらを加味してこれから我々が受ける教育はどう変化していくだろうか。数十年先でも、我々は教育を受けているかもしれない。



ここまで見ていただきありがとうございました！

参考文献

- 文部科学省(n.d.)オープン教育資源(OER)に関する勧告(仮訳)(2019年11月25日第40回ユネスコ総会採択)
https://www.mext.go.jp/unesco/009/1411026_00001.htm
- skills commons open for learning(n.d.)About Us.
<https://support.skillscommons.org/about/>
- 梅田望夫・飯吉透(2010)ウェブで学ぶーオープンエデュケーションと知の革命 筑摩書房
- EDUCAUSE(2018a)7 Things You Should Know About Open Education: Practices.
<https://library.educause.edu/resources/2018/7/7-things-you-should-know-about-open-education-practices>
- EDUCAUSE(2018b)7 Things You Should Know About Open Education: Policies.
<https://library.educause.edu/resources/2018/8/7-things-you-should-know-about-open-education-policies>
- 重田勝介(2016)オープンエデュケーション:開かれた教育が変える高等教育と生涯学習情報管理, Vol.59 ,No. 1 , p. 3-10,
- David Wiley(n.d.)Defining the "Open" in Open Content and Open Educational Resources.
<https://www.opencontent.org/definition/>
- 厚生労働省(n.d.)リカレント教育. https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_18817.html



今回の教材作成にはこれらの資料を使用させていただきました。
誠にありがとうございました。